

受験番号

名前

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

白鷹しらたかさんは、形だけでなく、釘くぎのかたさにもひみつがあることを発見した。①釘は、かたすぎてやわらかすぎてもいけない。やわらかいと、しっかりヒノキにつきささらないし、かたすぎると、木のせいや節をつぶしてしまう。釘がじょうぶでも、木をだめにしては、元も子もない。

白鷹さんはかじ職人だから、鉄に炭素を混ぜてたたくと、かたさを変えられることを知っている。白鷹さんは、炭素を混ぜる分量を少しずつ変えて実験してみた。②最初の釘はかたすぎて、打ちこむと節をつきぬけてしまった。節がわれて、その周りの木のせいまでいためている。これでは、木材自体が長くはもたない。次の釘は少し炭素をへらして作ってみた。打ちこむと釘はまっすぐささっていく。とちゅうで節にぶかった。するとこの釘は、おどろいたことに、節をわらないように、ぐるりとその節をよけて曲がった。太い鉄でできた釘が、生き物のように節をよけたのである。古代の職人たちは、ちゃんと③このことを知っていたのだ。

白鷹さんは、納得なつのいく釘を完成させるまで、何本も何本も作り直した。薬師寺やくしじの工事が始まって、釘を宮大工の人たちにわたすようになってからも、改良を続けた。そうして、これまで二万四千本の釘を作ってきた。それでも、白鷹さんは、もっといい釘を作ろうとしている。千年も前のかじ職人たちは、歴史に名を残すこともなく去っていった。それでも、すばらしいことをやりとげた。この職人たちに負けるわけにはいかないのだ。

「千年先のことは、わしにも分からんよ。だけど、自分の作ったこの釘が残っていてほしいなあ。千年先に、もしかじ職人がいて、この釘を見たときに、おお、④こいつもやりよるわいと思ってくれたらうれしいね。逆に、ああ、千年前のやつは下手くそだと思われるのははずかしい。笑われるのはもつといやだ。これは職人というものの意地だね。」

白鷹さんは笑った。千年前の職人たちも、同じことを思っていたのかもしれない。(内藤誠吾『千年の釘にいどむ』)

問一 ①「釘は、かたすぎてやわらかすぎてもいけない」とありますが、なぜですか。

I 釘がかたすぎる場合

( )

( )

II 釘が柔らかすぎる場合

( )

( )

問二 白鷹さんは、かたさのちがう釘をどうやって作ったのですか。

( )

( )

問三 ②「最初の釘」を打ちこむと、木はどうなりましたか。

節を ( ) しまい、節が ( ) て、その周りの ( )

( ) までいためた。

問四 ②「最初の釘」の次の釘は、どのような工夫をして作りましたか。

( )

( )

問五 ③「このこと」とはどういうことですか。「炭素」という言葉を使って答えなさい。

( )

( )

問六 ④「こいつ」とはだれのことですか。

( )

( )

問七 白鷹さんは、どんな思いで釘を作っているのですか。当てはまるものを一つ選び、記号に○をつけなさい。

A 千年前の職人に負けないようなすばらしい釘を作って、歴史に名を残したい。

I 千年先の職人たちに下手くそだと思われたり、笑われたりしてもいいから、しっかりした釘を作りたい。

ウ これまで二万四千本の釘をむだにしてきたので、これからは釘をむだにしないように作っていききたい。

エ 千年前の職人に負けないような、そして千年先の職人にも力をみとめられるような、いい釘を作りたい。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「①むこうで樽井はサッカー続けるのか？」  
派手なアロハのような長袖シャツを着た和樹が面倒くさそうに訊いた。

( ) A )

樽井は引つ越し作業の手を休め、黄色いボツボツの付いた真新しい軍手をはずしながら首を横に振った。桜ヶ丘FC時代に<sup>※</sup>ディフェンダーだった樽井は、ザルから水がこぼれるように、敵の選手に簡単に抜かれてしまうことから「ザルイ」と陰では呼ばれていた。

②小学生時代のチームメイト十三名はすべて同じ中学校の学区だったけれど、③ディフェンスの樽井だけは父親の転勤と共にこの土地を離れ、福島に引越していくことになった。引越しは入学式の数日前というあわただしさだったが、④その日、チームメイトの多くは引越し準備中の樽井のマンション前に集まっていた。

「福島といえば、Jヴィレッジがあんだろ？」

ひよろりと背の高い哲也が言った。

「うん、まだよくわからんが、けっこう家からも近いらしい」

人のよさそうないつもの笑顔で樽井が答える。

「続けるよ……」

オッサは少し怒ったような声で言った。

( ) B )

「( ) C )」  
長内陽介、通称オッサがこぼれた。

「おまえこそ、ゴールキーパー続けるよ」

樽井の言葉にみんなが破顔する。

「星川、それにオッサと尾崎、それ以外はみんな桜ヶ丘中サッカー部に入部の予定。オッサは野球部、尾崎は帰宅部。星川はJクラブだから……」

哲也は⑤あごをしゃくするようにしてしゃべった。

「そうだ、そうだ、サッカー続けて、レギュラーになったら対戦しようぜ。鮫島とみたいにな」  
眉毛の濃いシゲが笑った。

「それって全国大会ってことだろ、むりむり、そんなの絶対にあり得ないよ」

「卒業文集の将来の夢におまえ『サッカー選手になりたい』って書いてたじゃねえか」  
同じクラスだった⑥オッサが樽井に突っかかる。

(はらだみずき『サッカーボーイズ13歳 雨上がりのグラウンド』)

※FC：サッカーのクラブチーム ディフェンダー：守備を中心的作用とするプレーヤー

Jヴィレッジ：福島県にある日本サッカー界初のナショナルトレーニングセンター

鮫島：以前、桜ヶ丘FCに所属していたチームメイト。小学校二年生のときに母親の都合で引越してしまった。

問一 ①「むこう」とはどこのことですか。文章中にある地名をぬき出しなさい。

( ) )

問二 ②「小学生時代のチームメイト十三名」のうち何名が桜ヶ丘中サッカー部に入部の予定ですか。漢数字で答えなさい。

( ) ) 名

問三 ③「ディフェンスの樽井」があまり上手ではなかったことを、たとえを用いて表現している一文を文章中からぬき出し、初めの五字を書きなさい。

( ) )

※問題はその三に続きます。

受験番号	名前
------	----

問四 ④「その日」とはどんな日ですか。「〃の日。」に続くように文章中から四字でぬき出しなさい。

( ) の日。

問五 ( A ) ( B ) ( C ) にあてはまる言葉をそれぞれ次から選び、記号で答えなさい。

- ア サッカーに決まってんだろ  
イ わからん、いつてみないと  
ウ なにを?  
エ もちろん、続けるさ

A ( ) B ( ) C ( )

問六 ⑤「あごをしゃくるようにしてしゃべった」は哲也のどのような様子を表していますか。次から一つ選び、記号に○をつけなさい。

- ア ふざけた  
イ いばった  
ウ あきれた  
エ 喜んだ

問七 ⑥「オッサが樽井に突つかかる」とありますが、突つかかったときのオッサの気持ちを次の言葉に続けて、書きなさい。

・自分はサッカーをやめるが、樽井には ( )

三 次の漢字の指定された画数を解答欄の文字に黒く上書きしなさい。

- ①逆 【八画目】      ②院 【三画目】      ③別 【五画目】      ④関 【六画目】

# 逆 院 別 関

四 次のぼう線部の漢字にあやまりがあれば、正しい漢字に直しなさい。あやまりがない場合は○を書きなさい。

- ①未来に残す材産。 ( )  
②成績が急に上がった。 ( )  
③腹習と予習をする。 ( )  
④正義の味方の登場だ。 ( )  
⑤手帳にメモをとる。 ( )

五 次の意味になるように、下から漢字を選び、三字じゆく語を完成させなさい。

- ①わき目もふらず急いで走る様子。  
②とても簡単にできる様子。  
③ここぞという大事な場面。  
④なぜそうなのか、どうしてもわからないようなこと。  
⑤冬の寒さにたえることから、えんぎがよくおめでたいとされる植物。

念	飯
散	梅
松	不
議	

①

一
目

②

朝
前

③

正
場

④

思
---

⑤

竹
---

